



安倍自公政権に鉄槌を

全港湾労組48時間ストライキに続こう

後半の統一地方選、衆議院補選が闘われ、沖縄、大阪の補選では、自民党候補を敗北に追い込んだ。とりわけ、沖縄では、3度目の普天間基地撤去・辺野古新基地反対の審判が下った。

デニー新知事の誕生、2度目の県民投票での勝利に次ぐ快挙だ。自公政権は、沖縄県民の民意を尊重し直ちに埋立を止めるべきだ。私は、有志とともに6月に現地辺野古へ連帯に赴く。「座り込めここへ、ここへ座り込め!!」の一員として反対を表明したい。

さて、次はこのオール沖縄の闘いに学び、来る7月参議院議員選挙に向けて、全野党共闘を実現し、自公政権の年金納付改悪（現行70歳未満を70歳以上に引き上

げ）、経団連の中西会長の「終身雇用の時代は終わった」、そして新自由主義者・竹中平蔵が言う「自由に働いて、自由に雇って、結果的に生涯現役社会を実現する」と、いわば死ぬまで働け！ という「解雇自由の働かせ方改革」、そして大衆課税の消費税8%から10%へ値上げしようとする暴挙を粉砕しなくてはならない。

それには、全港湾労働組合が、最低賃金の底上げを要求し、4月14日・15日と48時間ストライキを闘い抜いた労働者魂に学ばねばならない。要求貫徹のため5月連休中のストも辞さないと構えている。全国の労働者も職場から反乱を起こせ！ それが参議院選挙勝利への導きの糸である。

労働大学企画編集委員 高原 敏朗